

はばたく女性たち

歴史・文学・伝説

現在でこそ、女性たちはさまざまな分野で活躍していますが、時代をわずかにさかのぼれば、みずからの思うような行動に踏み切れない女性たちも大勢いました。活躍するための力を蓄えようとしている女性、それを下ざさえている女性たちの姿は、振り返っておかなくてはなりません。一方、封建的な社会にあっても、臆せずみずからのなすべきことを考え、主張する女性たちの存在もありました。日本・中国・フランス・アメリカの例から、はばたく女性たち、あるいははばたこうとする女性たちの現実を再認識し、その実態を見直して行きます。

平成 28 年

1月26日(火)

～ 2月23日(火)

毎週火曜日・全 5 回

18:30～20:00

会場 大阪府立大学 I-site なんば

定員 100名 (応募者多数の場合は抽選)

受講料 5 講座セット：3,000円

1 講座：1,000円

1/26
(火)

浄瑠璃・歌舞伎の「姫」

大阪府立大学 教授 河合 眞澄

2/2
(火)

『列仙伝』の女仙

大阪府立大学 教授 大形 徹

2/9
(火)

もう一人の椿姫 – ジョルジュ・サンドの「イジドラ」

大阪府立大学 教授 村田 京子

2/16
(火)

家事・農作業の機械化と女性

大阪府立大学 教授 中村 治

2/23
(火)

アメリカ南部の女性たち

大阪府立大学 教授 滝野 哲郎

1月26日(火) 浄瑠璃・歌舞伎の「姫」

大阪府立大学 教授 河合 眞澄

浄瑠璃・歌舞伎には多くの姫が登場します。いずれも深窓で育った姫君であるにもかかわらず、夫や恋人のためには親をもかえりみなかったり、思い切った発言をしたりと、意外なほど勇敢な行動に出ます。封建制度のもと、従順なはずの彼女たちが、どのようにしてそのしがらみから自由になり、はばたこうとしていたのかを、三姫と呼ばれる『本朝廿四孝』の八重垣姫・『鎌倉三代記』の時姫・『祇園祭礼信仰記』の雪姫の活躍を中心に見て行きます。

2月2日(火) 『列仙伝』の女仙

大阪府立大学 教授 大形 徹

前漢、劉向撰『列仙伝』は70の仙人の話を収めています。うち10話が女仙に関するものです。江妃二女は女神。鈎翼は漢武帝夫人。毛女は秦の宮女で山に逃げ全身に毛が生えた。女丸は房中術を行った等の話を紹介します。女丸は市場の酒売りの婦人ですが、客の仙人が酒代をばらわらない。質ぐさとして、わざと書いていった素書をひらくと養性交接の術でした。女丸はその文章を写し房室を設け、少年たちを集め美酒を飲ませて宿泊させ、文書の法を行いました。そのようにして30年たちましたが、20ばかりのようでした。ある時、仙人がもどってきて、「道を盗んでも師がいなければ、翅(はね)が有っても飛べないよ」と言って連れていった話です。はたして女丸は飛べたのでしょうか。

2月9日(火) もう一人の椿姫—ジョルジュ・サンドの『イジドラ』

大阪府立大学 教授 村田 京子

アレクサンドル・デュマ・フィスの『椿姫』(1848)は芝居やオペラで上演されることが多く、日本でもよく知られています。しかし、この小説が世に出る2年前に「椿姫」と呼ばれる高級娼婦(クルチザンヌ)が小説世界にすでに登場していました。ジョルジュ・サンドの『イジドラ』の同名の主人公です。サンドは作曲家ショパンの恋人として、さらに「男装の麗人」として有名で、男女平等の権利を訴えたフェミニストの先駆けでもあります。そのサンドが生み出したイジドラは『椿姫』の主人公のように若くして死ぬこともなく、老いて醜くなることも恐れていません。男性作家の作品とは全く違う、女性作家の描くクルチザンヌ像を見ていきたいと思えます。

2月16日(火) 家事・農作業の機械化と女性

大阪府立大学 教授 中村 治

かつて女性は家事、育児に追われていました。それだけではありません。たとえば農作業においては、田植え、草取り、草刈り、稲刈りのように、地にはいつくばってする仕事を割り当てられ、はばたくのがむずかしい状況にありました。ところが戦後の高度経済成長時代に家事や農作業の機械化が進み、女性は水汲み、洗濯、農作業などにおける重労働から解放され、育児に関しても保育所や幼稚園の設置が進み、女性が以前よりはばたきやすい状況にはなってきました。では女性ははばたけているのでしょうか。古写真でかつての様子を見ながら、考えてみたいと思えます。

2月23日(火) アメリカ南部の女性たち

大阪府立大学 教授 滝野 哲郎

南北戦争のまえ、アメリカ合衆国の南部には綿花を栽培する大規模な農園が多数あり、そこでは多くの奴隷が労働に従事させられていました。そのような大農園のなかで暮らす女性たちは、どのような状況にあったのでしょうか。当時の日記、書簡、史料を手がかりにして、奴隷制社会のなかで生きる女性たちが自らの境遇をどのようにとらえていたか、そしてそこからいかに「はばたこう」としていたかを見ていきたいと思えます。

申込方法

「電子メール」または「往復はがき」に①「5講座セット」又は「受講希望日」、②郵便番号・住所、③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥このチラシの入手先をご記入の上、1月15日(金)までに下記申込先へ。※携帯メール不可

申込先 〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 大阪府立大学
地域連携研究機構 地域連携室「市民フォーラム」係
E-mail: forum27@ao.osakafu-u.ac.jp (携帯メール不可)
電話(問合せ先): 072-254-9942

お申し込みの際の個人情報は、応募後の事務連絡、統計資料の作成及本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外のご利用については、一切いたしません。

会場・交通

大阪府立大学 I-site なんば 2階

南海電鉄「なんば駅(中央出口)」下車、南へ約800m、徒歩約12分
地下鉄御堂筋線「なんば駅(5号出口)」下車、南へ約1,000m、徒歩約15分
地下鉄御堂筋線・四ツ橋線「大国町駅(1番出口)」下車、東へ約450m、徒歩約7分
地下鉄堺筋線「恵美須町駅(1-B出口)」下車、西へ約450m、徒歩約7分
南海電鉄高野線「今宮戎駅」下車、北へ420m、徒歩約6分

一旦お支払いいただいた受講料は、返金いたしかねますのでご了承ください。



※駐車場はありませんので、電車・バス等をご利用ください。